

プト、スイスの研究者から、それぞれの国の状況、国際比較などについて報告があった。筆者は都市の女性化について、日本とイランの比較、世界の状況について報告した。イランにおいても出生率が1980年代後半より急激に減少し、すでに人口置き換え水準を下回り、2011年では合計出生率が1.80になっている。激動する政治的背景のもと、このような社会変化は今後どのような帰結をもたらすのであろうか。会議の情報は <http://www.ict2015.ir/> に掲示されている。(林 玲子 記)

## 国連世界統計の日「世界の女性 2015」刊行 記念パネルディスカッション

2015年10月20日（火）、国連が定めた世界統計の日に、「世界の女性2015（The World's Women 2015 : Trends and Statistics）」の刊行を記念したパネルディスカッションがアメリカ・ニューヨークの国連本部で開催された。このイベントは、「世界の女性2015」の編著・刊行を行った国連統計部と、国連日本政府代表部、メキシコ政府代表部の共催にて行われたものである。国連日本政府代表部の南大使の開会あいさつの後、国連統計部グルム氏の「世界の女性2015」の解説、次いで筆者から「世界の人口高齢化時代における女性とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）」についての報告、メキシコ統計局のヴァレラ氏からメキシコにおける女性に対する暴力に関する統計についての報告が行われ、その後フロア討議が行われた。「世界の女性」は、ジェンダー統計とその解説についての報告書で、5年毎に国連統計部により刊行されている。2015年版は人口と家族、健康、教育、仕事、政治的意思決定、女性に対する暴力、環境、貧困に関する章が設けられ、さらに今後のジェンダー統計の整備の課題と展望について述べられている（報告書は国連統計部 HP よりダウンロード可能）。またイベントの情報は、

<http://unstats.un.org/unsd/gender/Events/20%20Oct%202015/default.html> に掲示されている。

(林 玲子 記)

## 2015年人文地理学会大会

2015年人文地理学会大会は、2015年11月14日（土）・15日（日）に大阪大学豊中キャンパス（豊中市）にて開催された。人口に関する報告と発表者は下記の通りである。

今大会では下記のようにさまざまな地域が対象となっている。ラオスの農村に関する報告では、公的な人口統計や資料等が少ないことから、報告者達が現地調査によって丹念に資料を作成していた。地理学が有す人口問題への近接方法を再認識する大会ともなった。

「中山間地域における集落の小規模・高齢化と無住化—中国地方の実態を中心に—」

.....作野広和（島根大学）

「市区町村別人口移動傾向—若年層の純移動率を中心に—」

.....貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

「平成の大合併」は縁辺部の人口減少を加速させたか？

—合併前後における旧市町村の人口変化の人口学的分析—

.....小池司朗・山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）

「地域格差と人口移動から見た三大都市圏の動向—地方創生政策と東京一極集中問題—」

.....豊田哲也（徳島大学）

- 「ラオス稲作農村の人口増加・出稼ぎ・生業の相関」……………横山 智（名古屋大学）
- 「ラオス中部 K 村の人口変動」……………高橋真一（新潟産業大学）・白川千尋（大阪大学）
- 「ラオス中部 K 村の世帯構成の変化」……………西本 太（長崎大学）・白川千尋（大阪大学）
- 「村との関係からみたバンコクへの出稼ぎ—ラオス中部 K 村の事例—」  
 ……………丹羽孝仁（埼玉大学・非常勤講師）・中川聡史（埼玉大学）
- 「人口増加と水田所有—ラオス中部 K 村の事例—」  
 ……………横山 智（名古屋大学）・西本 太（長崎大学）  
 （貴志匡博 記）